

みみの記念日 3月3日耳の日 6月6日補聴器の日 9月9日人工内耳の日 9月23日手話言語の国際デー



聴覚障害者・情報支援者による

佐賀インターナショナルバルーンフェスタ 第5回 写真コンテスト 表彰式

2017年から始まったバルーン写真コンテストは今回で5回目。36名・68作品の応募は、どちらも過去最多でした。応募者の内訳は、聴覚障害者22名、情報支援者14名。県外からは愛知県2名4作品、福岡県6名12作品の応募がありました。12月17日に行った表彰式の模様と受賞作品を紹介します。



後援いただいた皆様(敬称略)
佐賀市・佐賀バルーンフェスタ組織委員会
システムラボラトリー(株)・(株)通信企画
あそう補聴器(株)・(有)岩永補聴器
九州リオン(株)・(株)ヨネザワ
ありがとうございました。

★最優秀賞(2作品)★



「ファンタジック・ナイト」
池田 晃一 さん(佐賀)



「平和の大空へ」
江口 伊沙帆 さん(佐賀)

★審査員特別賞(3作品)★



「空にとどけ」
田中 誠 さん(佐賀)



「初めて見る空...
飛ぶ...ん?」
辻田 亜紀 さん
(佐賀)→



「朝陽に包まれて」
池田 真由 さん
←(福岡)

役に立つ 新シリーズ【18】

第18回は、80歳代女性の相談です。

聴覚障害者手帳を所有し、補聴器を装着しているが、早口の会話や周りがザワザワした場所での会話は聞きとりが難しく、ご家族と相談に来られました。相談室での会話も聞きとれないまま頷いている様子が見られました。

相談室で補聴援助システムを使用してやりとり

赤外線を用いた
補聴援助システム

受信機
難聴者が首にかけて
イヤホンで聞く



送信機

話者は
マイクを
使用する

補聴援助システムを使用してやりとりをすると、口数が多くなり表情が明るく変化。帰り際には、「家族といっても、病院を受診していても、通じないことばかり。伝わるってこんなに楽しいのかと思った。」と感想を話されました。

健聴者の家族に付き添われ病院を受診した時、話しかけられた時など、聞き返せないまま家族が先に答えてしまい、当人の理解や気持ちが後回しにされることがあります。

補聴器を装着していても、話し手と離れていたり、複数人での会話、小声や早口での会話などは聞きとりが難しくなります。こういった場面では、話し手の声を直接耳に届ける補聴援助システムを使用することで、聞きとりやすくなるがあります。

★特別企画★～表彰式来場者 全員参加～

賞品：デジタルフォトフレーム
提供：(株)通信企画

【アレを当てたで賞】

お気に入り投票で最優秀賞作品に投票した人の中から抽選で1名：児玉美佳子さん



【アレはアナタのモノで賞】

来場者総参加じゃんけん大会で最後まで勝ち残った1名
中村 稔さん



》巡回聴こえの相談《

要予約



- 太良町 しおさい館
1階・ボランティア室
2月20日(火)10:00～15:00
- 佐賀市三瀬村 三瀬支所
1階 コンフェランス
3月26日(火)10:00～15:00

編集後記：12月の最高気温、23.4度を観測したかと思ったら、1週間後は4度までしか上がらず。予測はできても対応が難しい kiyō

佐賀県聴覚障害者サポートセンター

〒840-0826 佐賀市白山二丁目 1-12 (佐賀商工ビル4階)
TEL：0952-40-7700 FAX：0952-40-7705
メールアドレス：info@saga-mimisapo.jp
ホームページアドレス：http://saga-mimisapo.jp/

バルーン写真コンテスト

★優秀賞(6作品)★



「通りますよー」
清松 政彦 さん(福岡)



「じいじ！
バルーンいっぱい！」
細川 かおり さん
(佐賀)



「月美人」
長坂 勝人 さん
(愛知)



「コロナ禍からの再スタート」
松尾 留美 さん(佐賀)



「バルーン観客と朝日」
多久島 敬太 さん
(佐賀)



北村審査員【講評】



「久々の午後の競技実施で
大混雑の佐賀駅」
伊東 康博 さん(佐賀)

今回の作品はとてレベルが高い。秀作が多く、選ぶのが難しかった。その中でも最優秀賞や審査員特別賞は技術が高いことに加えて、時勢(ウクライナの平和を願う、など)に合わせた表現や、見せ方の工夫がなされているものである。バルーンが良いポジションまで飛んで来るまで待っている努力もすごい。これまでで一番評価の高い作品であった。中には、バルーン本体が無くてもバルーンフェスタを表している作品があり、とても良い。佐賀独自の大会を撮られているので良かった。

＜開館時間＞

9:30～18:00

＜閉館日＞

毎週月曜日、祝日